**獅子踊り**

磐司祭は、山寺の最大の年間イベントの1つです。この夏祭りは8月初頭に、伝説的狩人磐司磐三郎（生没年不詳）の功績を讃えるため開催されます。磐司磐三郎は山の番人で、寺の建立の際に重要な役割を果たした人物です。伝説では、 磐司は宝珠山のふもとにある大きな岩、対面岩（対面する岩）の上で円仁（794年～864年）に出会ったと言われています。円仁はここで、北日本に仏の教えを広めるための場所を築くという彼の目標を語りました。円仁の目標に強く心動かされた磐司は、円仁に土地を寄付し、この辺りでの狩りを止めました。これを聞いた山の動物たちは、対面岩の前に集まり、喜びの踊りを踊りました。

この伝説は、磐司祭のメインイベントの1つである獅子踊りの元となっています。参加者たちは、対面岩の隣にあり、円仁と磐司の像が安置されている対面堂の前に集まります。地元の団体の人々が、伝統音楽に合わせて生き生きとした踊りを披露します。行列を成して山寺の上層部へ進み、根本中堂（本堂）と山寺の創設者へささげて建てられた開山堂へと進みます。